

内科専門研修プログラム

◆ プログラムについて

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院を基幹施設とし、豊富な臨床経験を持つ指導医のもとで基礎的な疾患から、高度な知識や技術を必要とする疾患まで診断と治療技術を学ぶ事ができます。造血細胞移植センターを持つ血液内科では国内有数の数を誇る骨髄移植、循環器内科では心臓外科ともタイアップしたインターベンション治療、消化器内科ではESDを始めとする高度な内視鏡治療技術、拡大内視鏡を用いた精査な内視鏡診断を学ぶ事ができます。呼吸器内科では肺癌を始めとする化学療法、急性期の呼吸管理、気管支鏡による最先端の診断治療を学ぶことができます。腎臓内科では腎疾患のみでなく数多くの膠原病症例も経験できます。その他内科各分野でも最先端の診断、治療技術を経験できます。3次救命救急センターを持ち、内科各分野を始め高度な救急医療を経験する事ができます。災害救護にも豊富な経験を持っています。多職種からなるチーム医療にも積極的に参加することができます。

※プログラム内容の詳細は、当院ホームページよりご覧下さい。

◆ 専攻医の処遇

- ・身分：専攻医（常勤嘱託）
- ・給与：3年次 基本給 290,300円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）
4年次 基本給 305,800円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）
5年次 基本給 320,100円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）
- ・他施設で研修する場合の雇用条件は、それぞれの研修施設の給与、社会保障、労働条件による。退職金等は、退職時の施設基準に従う。雇用にかかわる住宅、交通などの条件は、当該研修施設の基準に従う。

◆ 主な研修コース

内科基本コース（3年間）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	基幹施設（ローテート研修：消化器・循環器・呼吸器・神経・血液・内分泌・腎臓・救急・地域）											
2年次	基幹施設（ローテート研修または希望する Subspecialty）											
3年次	連携施設（内科全般または希望する Subspecialty）											

内科サブスペ混合コース（4年間）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	基幹施設（ローテート研修：消化器・循環器・呼吸器・神経・血液・内分泌・腎臓・救急・地域）											
2年次	基幹施設（Subspecialty 研修）											
3年次	連携施設（Subspecialty 研修）											

腎臓内科

名古屋市内の有数の基幹病院である当院では、幅広い腎臓病領域について研修を積む事が可能です。腎炎やネフローゼなどでは、腎生検検査、生検組織の病理診断、そして治療に至るまでの一連の流れを経験する事が可能です。また、高齢化に伴う昨今、CKD（慢性腎臓病）の患者さんも増えてきており、こうした方に対する基本的な薬物治療の考え方、入院診療、計画的な腎代替療法の実際についても、担当医として学ぶ事が可能です。当院では、血液透析、腹膜透析に加えて、平成30年度より、泌尿器科と連携して生体腎移植も始めております。よって末期腎不全に対する治療全般についても、これまで以上に多くの症例を担当する事が出来ます。また血液透析に必要な、シャントと呼ばれる血管手術は、腎臓内科で実施しています。ローテートされる研修医・専攻医の先生には、手術の助手として参加してもらいます。加えて、透析用カテーテル留置や、その他観血的手技に際しては上級医の指導のもと、経験を積んでもらえる環境が整っています。更に、当院の特色としては高度医療を担う病院であり、例えば骨髄移植後であったり、抗癌剤関連の腎障害など、特殊な状況での腎疾患を診療する機会もあります。また、透析患者さんでは他科と連携して診療に当たる機会も多くあります。ローテート中は常に上級医や指導医とディスカッションし、フィードバックを受けられる環境ですので、疑問点や問題点があれば積極的に質問や相談をしてもらえればと思います。

腎臓内科全体の行事としては、症例カンファレンス、抄読会や病理組織勉強会などが定期的に行われています。若手には、学会発表や論文作成にも積極的に取り組んでもらうよう課題が与えられ、各自忙しい診療の合間に研鑽を積んでもらっています。以上、内科専門研修プログラムとしても、有意義な研修となる事はもちろん、将来のキャリアとして腎臓病専門医の取得を目指す専攻医にとっても、魅力ある研修環境であると思います。是非やる気ある先生方を、スタッフ一同お待ちしております。

◆内科プログラム採用実績

	令和2年度	令和3年度
腎臓内科	0名	1名
内分泌内科	0名	1名
血液内科	1名	1名
神経内科	3名	2名
循環器内科	1名	1名
呼吸器内科	1名	1名
消化器内科	2名	2名

お問い合わせ先

日本赤十字社愛知医療センター
名古屋第一病院 教育研修管理課
TEL：052-481-5111
Email：kensyu-jimukyoku

内分泌内科

【診療科の概要】

当科では内分泌・糖尿病疾患を中心に診療を行っております。

内分泌疾患では主に下垂体、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患など内分泌疾患全般の診療を行っています。糖尿病疾患については1型糖尿病、2型糖尿病の入院および外来での慢性的な血糖管理から、糖尿病性ケトアシドーシスや周術期など急性期の血糖管理を行っています。また当院では各科が充実しており、他科と連携をとりながら診断治療を行っています。

【実績】

当科での診療実績

先端巨大症、プロラクチノーマ、下垂体機能低下症、尿崩症、バセドウ病、慢性甲状腺炎、甲状腺リンパ腫、甲状腺腫瘍、プランマー病、粘液水腫性昏睡、副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、インスリノーマ、急性ポルフィリン症、糖尿病性ケトアシドーシス、高血糖高浸透圧症候群、臍性糖尿病、妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠など。

内分泌疾患は稀少疾患も多く経験を積むことが困難となることもありますが、当院では比較的多くの内分泌疾患を初診時から自分で診断し治療を行うことが出来ます。

また日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定教育施設に指定されており、内分泌専門医、糖尿病専門医、甲状腺専門医の取得も可能です。



◆内科プログラム採用実績

	令和2年度	令和3年度
腎臓内科	0名	1名
内分泌内科	0名	1名
血液内科	1名	1名
神経内科	3名	2名
循環器内科	1名	1名
呼吸器内科	1名	1名
消化器内科	2名	2名

お問い合わせ先

日本赤十字社愛知医療センター
名古屋第一病院 教育研修管理課
TEL : 052-481-5111
Email : kensyu-jimukyoku

血液内科

私たちは、1977年に骨髄移植第一例目を行ってから、これまでに約1,500例、近年は年間約50例の同種造血細胞移植を実施し、全国でもトップクラスの実績があります。2013年度からは厚生労働省より造血幹細胞移植推進拠点病院の認定を受け、東海ブロックの移植施設と連携して当地区の移植医療の発展に努めています。造血細胞移植に限らず、抗癌剤や分子標的薬、最近では免疫細胞療法など最新の治療も積極的に取り入れ、また、臨床試験や製薬会社の治験なども行い、難治性造血器腫瘍の治癒を目指しています。

年間の新規患者数は、急性白血病 約30例、悪性リンパ腫 100～120例、多発性骨髄腫 約15例に上り、これらの悪性疾患の他にも再生不良性貧血や難治性溶血性貧血、ITPなど様々な血液疾患の患者さんが常時70～80名入院しています。高齢者の患者さんも多く、患者さん一人一人の状況や思いに沿った最適な治療を心がけています。

<スタッフ>血液指導医 4名(部長 2(血液内科、輸血部長)、副部長 2)、
医員(卒後6-8年) 4名、専攻医(卒後3-5年) 5名



<メッセージ>治療に伴う合併症や免疫抑制状態での感染症などに対応することで、全身管理を学ぶことができます。また、幅広く多くの血液疾患を経験するとともに、学会発表などを通じて疾患の理解を深めることで、患者さんにとって最善の治療を選択、実施する力を養うことができます。

血液疾患に興味がある皆さんの参加をお待ちしています。

◆ 内科プログラム採用実績

	令和2年度	令和3年度
腎臓内科	0名	1名
内分泌内科	0名	1名
血液内科	1名	1名
神経内科	3名	2名
循環器内科	1名	1名
呼吸器内科	1名	1名
消化器内科	2名	2名

お問い合わせ先

日本赤十字社愛知医療センター
名古屋第一病院 教育研修管理課
TEL: 052-481-5111
Email: kensyu-jimukyoku

脳神経内科

当院の脳神経内科では、脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）をはじめとして、神経変性疾患（ALS、パーキンソン病、MSA、PSP、CBD など）・脱髄疾患（MS、NMO、ADEM など）・てんかん・脳炎・髄膜炎・末梢神経疾患（ギラン・バレー症候群、CIDP など）・筋疾患（炎症性筋炎、重症筋無力症、ミトコンドリア脳筋症など）等の多彩な疾患を多数診療しています。年間約 900 例ある入院患者の約半数は急性期脳血管障害であり、年間約 20 例の rt-PA 静注療法を行い、脳神経外科に依頼して血栓回収療法も多数行われています。脳血管障害以外の神経内科疾患は名古屋市内の急性期病院の中でも有数な症例数を誇っています。

神経内科専門医・指導医として常勤が 4 名と非常勤が 1 名おり、初期研修医、内科専攻医、神経内科専攻医を指導しています。週 1 回（月曜日）の症例検討会と抄読会に加えて、毎朝新規入院患者のカンファレンスをしています。毎週木曜日には部長回診、ピックアップケースのベッドサイドカンファレンスを開催しています。名古屋大学保健学科元教授：古池保雄先生の指導のもと脳波検討会を毎週開催し、名古屋大学神経内科元教授：高橋昭先生をお招きして症例検討会（隔月）を開き正確な神経症候学を学ぶ機会も作っています。愛知医大加齢医科学研究所の吉田眞理教授とのニューロ CPC も年数回行っております。名古屋医療センター・国立東名古屋病院・国立長寿医療センター・名古屋第 2 日赤との合同カンファレンス（3NH-2RC）にも参加し、年 1 回は当院で開催しています。

若手医師（初期研修医・内科専攻医・神経内科専攻医）には、内科学会地方会や神経学会地方会などに症例発表するよう指導し、論文作成にも積極的に取り組んでもらっています。

並行研修により、最短で神経学会専門医、脳卒中学会専門医の取得も可能です。

当院神経内科では若手医師の教育と指導に特に力を入れており、きっと満足いく充実した研修ができるものと確信しています。神経内科疾患に関心があるやる気のある方をお待ちしています。

◆内科プログラム採用実績

	令和 2 年度	令和 3 年度
腎臓内科	0 名	1 名
内分泌内科	0 名	1 名
血液内科	1 名	1 名
神経内科	3 名	2 名
循環器内科	1 名	1 名
呼吸器内科	1 名	1 名
消化器内科	2 名	2 名

お問い合わせ先

日本赤十字社愛知医療センター
名古屋第一病院 教育研修管理課
TEL：052-481-5111
Email：kensyu-jimukyoku

循環器内科

循環器病の診断、治療のほぼすべての領域に対応しております。

冠動脈疾患の診断における、非侵襲的検査はほぼ全て可能です。冠動脈 CT に関しては 128 列デュアルソース CT と 320 列 CT を導入しています。デュアルソース CT では検出器が 2 個存在することにより、時間分解能に優れており、脈拍変動に伴う画像のアーティファクトが少ないために、従来のマルチスライス CT に比較して診断率が改善しております。経験豊富な放射線技師により作成された心臓の 3D 画像はアブレーション、TAVI の際に有用です。また冠動脈壁のイメージングにより冠動脈に粥腫プラークの情報を得ることで将来の心血管イベントを予測可能であり、年間 1200-1500 件施行しており、緊急撮像にも対応しています。心筋シンチ、心筋 MR、心筋 PET などの各種モダリティが利用可能であり、読影も定期的に行っており、非侵襲的な検査機器による診断を学ぶことができます。

治療に関しても二台の Biplane Cineangiography を用い、IVUS、OCT、FFR などで冠循環の評価を行い、PCI の適応を決定しています。急性冠症候群に対する PCI に 24 時間体制にて対応しており、また難易度の高い慢性閉塞病変への PCI も施行しています。冠インターベンションについては CVIT の専門医が 2 名常勤しており、研修施設となっておりますので、十分な数の症例を研修時期に経験することが可能です。心房細動や心室性不整脈に対するアブレーションも多数施行しており、不整脈専門医による指導を受けられます。

デバイスの植込みも毎年 100 例前後行われており、体内式ペースメーカー、リードレスペースメーカー、除細動器 ICD、SICD、CRT など各種デバイスを植込みできる認定施設です。Structural Heart Disease に関しては、AS に対する経皮的動脈弁置換術 TAVI も施術可能であり、良好な院内成績を維持しております。心臓外科とハートチームを組んで、定期的カンファレンスをしていますので、手術適応について学ぶことができます。集中治療としては、救急、院内合わせて 16 床を有しており、救急時に対応しています。IABP、PCPS、IMPELLA を挿入可能であり、重症心不全患者への治療体制が充実しています。

Total Vascular Care の一環として、心臓リハビリテーションによる包括的治療を行っています。CPX も含めた運動機能の評価を学ぶことができます。急性期から慢性期の診断治療を学んでもらい、バランスのとれた循環器医の育成を目標としております。

◆内科プログラム採用実績

	令和 2 年度	令和 3 年度
腎臓内科	0 名	1 名
内分泌内科	0 名	1 名
血液内科	1 名	1 名
神経内科	3 名	2 名
循環器内科	1 名	1 名
呼吸器内科	1 名	1 名
消化器内科	2 名	2 名

お問い合わせ先

日本赤十字社愛知医療センター
名古屋第一病院 教育研修管理課

TEL : 052-481-5111

Email : kensyu-jimukyoku

呼吸器内科

【概要】

当院は地域の基幹病院で、主に急性期疾患の入院診療を担っております。呼吸器内科診療もそのような当院の特色を反映しており、呼吸器感染症、アレルギー疾患、腫瘍性疾患、間質性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全等様々な疾患の治療を行っています。

特に肺がん症例に関しては年間約200例と愛知県内でも有数の多さを誇っております。今後も、肺がん症例は増加の一途をたどることが予想されます。

毎年1-3名の後期研修医が当科を専攻しており、屋根瓦方式の研修が可能です。

気管支鏡検査は週3回検査日を設けており、年間400例を越え、内視鏡治療や局所麻酔下胸腔鏡、CTガイド下生検、気管支動脈塞栓術なども行っております。

現在は呼吸器学会呼吸器専門医5名・常勤医2名・専攻医3名の体制で、日本呼吸器学会認定施設となっています。

【実績】

年間入院者数 1600人以上

肺癌初診 200人程度 感染症 350人程度 気胸 100人弱

気管支鏡検査 400例 CTガイド下生検・胸腔鏡検査それぞれ5-10例

週1回の症例検討会、英語文献抄読会、放射線科・呼吸器外科・病理診断科によるカンサーボードを行っています。

◆内科プログラム採用実績

	令和2年度	令和3年度
腎臓内科	0名	1名
内分泌内科	0名	1名
血液内科	1名	1名
神経内科	3名	2名
循環器内科	1名	1名
呼吸器内科	1名	1名
消化器内科	2名	2名

お問い合わせ先

日本赤十字社愛知医療センター
名古屋第一病院 教育研修管理課
TEL：052-481-5111
Email：kensyu-jimukyoku

消化器内科

消化器内科では上部、下部消化管、肝臓、胆道、膵臓疾患を幅広く診療しています。総合内科専門医で必要な疾患群はほぼ研修中に網羅することが可能です。サブスペシャルティの専門医も消化器病、消化器内視鏡、肝臓学会の教育施設認定を受けており、取得可能です。内科との平行研修も可能で、初期研修からの症例を登録することもできます。

内視鏡は上部、下部、ERCP、EUS を合わせて年間 12000 件以上施行しています。拡大機能、NBI を搭載する最新の内視鏡を備えており、最先端の診断、治療が可能です。早期癌に対する内視鏡治療の主軸となる ESD は年間 250 件程度施行しており、拡大内視鏡による精密診断から治療の流れを学ぶことができます。緊急内視鏡も年間 1200 件以上施行しています。消化管出血等に対する的確な内視鏡治療を体得することが可能です。ERCP も年間 700 件以上行っており、緊急の閉塞性黄疸に即応できる体制を整えています。EUS、EUS-FNA も積極的に行っているため胆膵疾患の診断から最新の治療を学ぶことができます。肝臓領域でも造影 US による精密診断、肝生検、CT、MRI の画像診断を幅広く経験することができます。RFA、血管造影による治療も消化器内科が主体で行っています。

消化管出血、異物除去、胆管炎、急性膵炎などの消化管、肝胆膵領域の急性疾患、悪性腫瘍の化学療法、慢性肝疾患の治療など広範な疾患を幅広くかつ深く学べるのが当科の特徴です。学術活動も積極的に行っており、内科、消化器、内視鏡、肝臓学会で発表、論文作成も可能です。

積極的に研修すれば、幅広い知識と、経験、技術を習得し、学術業績を積むことができます。やる気のある方には是非来ていただきたいと思います。

◆内科プログラム採用実績

	令和 2 年度	令和 3 年度
腎臓内科	0 名	1 名
内分泌内科	0 名	1 名
血液内科	1 名	1 名
神経内科	3 名	2 名
循環器内科	1 名	1 名
呼吸器内科	1 名	1 名
消化器内科	2 名	2 名

お問い合わせ先

日本赤十字社愛知医療センター
名古屋第一病院 教育研修管理課
TEL：052-481-5111
Email：kensyu-jimukyoku